

復興の歴史と ながおか 長岡まつり

長岡市では、8月1日という日を忘れず、
戦争で亡くなられた人たちの霊を慰め、
長岡市が再び発展することを願って、翌
年の昭和21年8月1日に「長岡市戦災
復興祭」が行われました。昭和22年から
は、戦争のために中止となっていた長岡
名物の大花火大会も復活しました。その
後も、年々盛んになり、昭和26年からは
「長岡まつり」と名前を変えて現在まで
続いています。



長岡市とホノルルの交流



2012年3月に長岡市と
ホノルル市は姉妹都市提
携し、青少年を中心に行わ
れている平和交流により
お互い歴史や文化を学ん
でいます。



また、ホノルルで長岡花火が打ち上げられ、戦没者の慰霊と世
界の恒久平和を祈る長岡花火はホノルル市民に浸透し共感
を得ています。

B-29



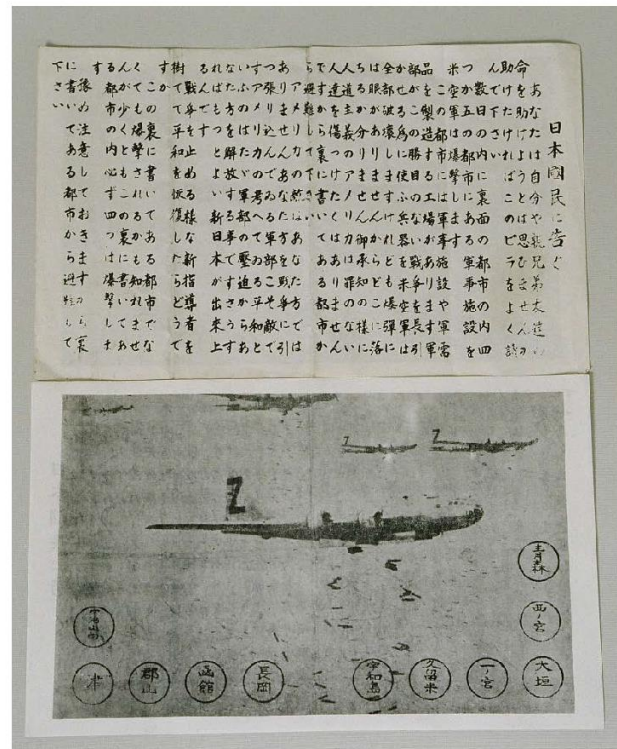
アメリカ合衆国のボーイング社が設計製造した大型爆撃機で、通称スーパーフォートレス(超空の要塞)と呼ばれ全長30.2m、全幅43.1mと非常に大きいものでした。東京、名古屋、大阪をはじめ、日本各地の都市に対し絨毯爆撃を行い、主要都市を焦土化した。

しょういだん 焼夷弾

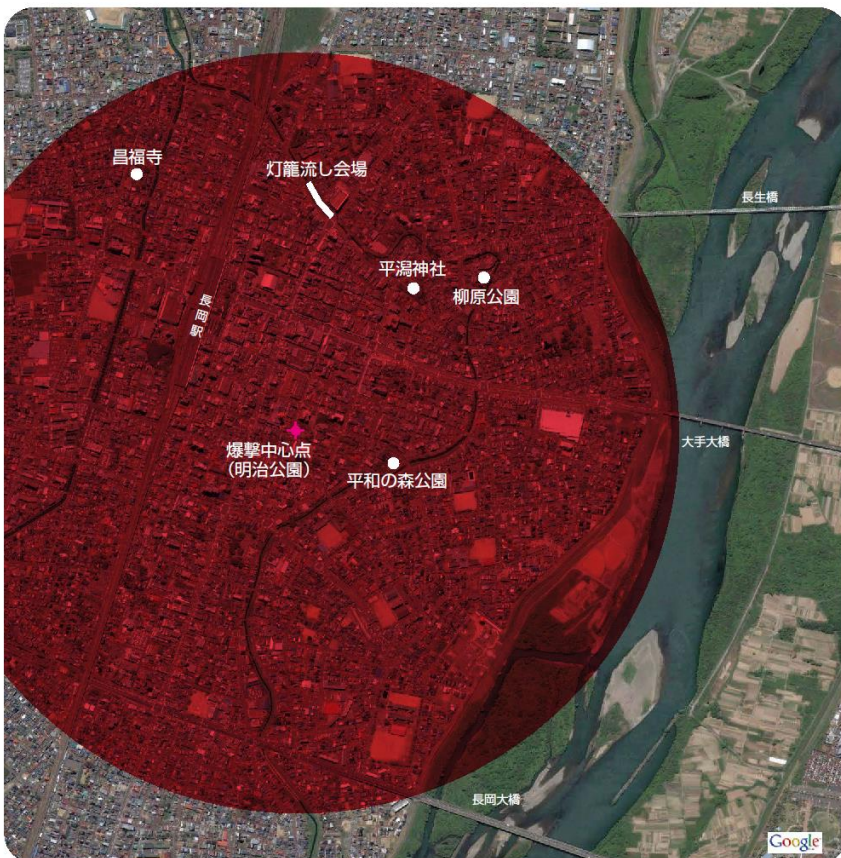


E46集束焼夷弾という六角形の筒状のM69焼夷子弾を19発ずつ二段に38発を収め、空中で散開台する。地上に落下した子弾は火のついたゼリー状の油脂ガソリンを吹き出し火災を起こす。

でんたん 伝単



アメリカ軍が全国の都市に投下したもので、相手国民(日本国民)の戦意喪失を目的とし、上空からまかれたチラシです。上が表、下が裏面となっています。内容は表面に数日のうちに都市のうち4つから5つの都市を爆撃するので逃げて下さい、裏面には爆撃をするかもしれない都市の名称が書かれています。



ながおか 長岡空襲の範囲

長岡空襲は、明治公園を中心とする半径1.2キロメートルの範囲の市民が住む市街地をねらったものでした。



(Photo) 北越印刷工場焼跡

くうしゅう ちよくご かきがわ
空襲直後の柿川



ながおか くうしゅう
もうひとつの長岡空襲



もぎ げんし ばくだん とうか ちてん あとち
模擬原子爆弾投下地点跡地

げんしばくだん
原子爆弾と聞くと、広島と長崎を思い出す人が多いで
しょうが、実は長岡にも模擬原爆が落とされているのです。

1945年7月20日午前8時13分頃、長岡市左近地区
(信濃川近くの畑)に模擬原爆が落とされました。死者4名
(爆撃地点付近の畑にいた20歳と15歳の兄弟を含む4
人)、負傷5名、付近の31戸の家屋に被害をもたらしまし
た。長岡に投下された模擬原爆は、原子爆弾の投下訓練と
して行われたもので、8月9日、長崎に落とされた原子爆弾
とほぼ同じ型のものでした。



白菊

しらぎく

ながおかくしゅう じこく
70年前の長岡空襲が始まった時刻、
昭和20年8月1日午後10時30分に
くしゅう な
あわせて、空襲で亡くなられた方々
いれい ふっこう じんりよく せんじん
への慰霊、復興に尽力した先人への
かんしゃ こうきゅうへいわ ねが
感謝、恒久平和への願いを込めて白
しゃくだま
一色の尺玉3発が打ち上げられます。